



# 地域に根を張る

# 未来への芽

市の基幹産業の一つであるかんきつ栽培。その歴史は古く、1789年ごろに当時の立間村白井谷（現吉田町立間白井谷）で温州みかんの栽培が始まったと言われています。温暖で水はけの良い急傾斜の山がかんきつの生育に適していて、栽培が盛んに行われるようになりました。その後、新品種の開発やブランド化、栽培技術の向上により一大産地として発展し、現在も全国トップクラスの生産量と品質を誇っています。また約20種類もの多種多様なかんきつが栽培されているのも特徴です。

しかし平成30年7月豪雨災害による園地への被害や農家の高齢化で担い手が不足していくことが懸念されていて、どのようにして産地を維持していくかが課題となっています。

そのため市や関係機関が情報共有、連携を密にし、新たにかんきつをはじめとする農業を始めたいと考えている人をサポートすることで、担い手の確保・育成に取り組んでいます。

今回は、それらの取り組みの一つとしてえひめ南農業協同組合が4月に開校した「みかん学校」について特集します。

# 「みかん学校」開校

さまざまな組織と連携し、かんきつ栽培の担い手を育成します。



みかん学校は、豪雨災害による影響などでかんきつ農家の高齢化や担い手不足が進む中、関係機関と連携し新たな担い手を確保育成することを目指す研修施設として、えひめ南農業協同組合（JAえひめ南）によって立ち上げられました。

令和6年4月には5人の研修生を迎え開校式が行われました。研修生たちは週4回、1～2年かけてかんきつの栽培方法について学び、市内での就農を目指します。研修園地には担い手がいない遊休園地を利用し、Iターンなどで園地を持たない研修生には、研修修了後に研修園地の一部をのれん分けするようになります。

また研修の講師には、県をはじめ、企業、大学、地元農家なども加わり、官・民・学・地域が一体となって担い手の育成に取り組んでいます。市も企業版ふるさと納税を活用した研修教



材の作成や研修園地の整備などで支援しています。

そこで、今回は5人の研修生と学校関係者、そして先輩農家に話を聞きました。

## みかん学校の一日のスケジュール

園地実習（月・火・金曜日）の例



座学（木曜日）の例



# 地域に根差す新しい芽になれるように頑張ります

## 研修生インタビュー



大学卒業後は東京で営業職をしていましたが、昨年退職し宇和島に帰ってきました。実家の手伝いでミカン作りの知識は多少ありますが、この機会に専門的な知識や技術を身に付け、家業を継ぎたいと考えています。平成30年7月豪雨では実家の園地も被害に遭い、果樹の植え替えを余儀なくされた箇所もありました。これからは代々続くかんきつ業を自分が守っていきたくと思います。また効率良く品質の良いかんきつを生産するためにデジタル技術を取り入れることも考えていきたいです。

生まれ育った地元はやっぱり安心できます。学校が休みの日は家の手伝いをするのがほとんどですが、旅行が趣味なので時間ができたらいろいろ出かけてみたいと思います。



若藤 鶴真さん  
宇和島市出身

かんきつが大好きで10年ほど前から栽培について勉強したいと思っていました。加えて城巡りが好きで毎年宇和島城に足を運んでいたこともあり、みかん学校のことを聞いて応募しました。

地元にも海はありますが、宇和島は海の手すぐそばにミカン山があつて景色がまったく違います。気候も人も穏やかで、暖かく暮らしやすいと感じています。釣りが好きなのでのんびり釣りをしてみたいです。

研修修了後は、昔から作られている温州みかんや大好きな河内晩柑の栽培に挑戦しようと考えています。自分が食べて納得できるものを多くの人に食べてもらいたいです。また地域のコミュニティにも顔を出し、農業以外の業種の人とも交流できればと思います。



黒澤 敬子さん  
茨城県出身



## 赤松裕太さん

東京都出身



東京で衣料品販売の仕事をしていましたが、何か新しいことを始めたいと考え、宇和島でミカンを作ってきた祖母の後を継ぐために応募しました。

音楽が好きで市内のレコード屋に立ち寄りたりしていますが、商店街を歩いたときに閉まっているお店が多かったのが印象的でした。まずは農家として一人前になるところからですが、いつか自分のかんきつを使ったジュースと一緒に好きな音楽や服などのカルチャーを発信できるようなお店を構え、地域を盛り上げていきたいです。

## 川野奈緒子さん

宇和島市出身



市外に住んでいましたが、ミカン農家をしている両親の跡を継ぐため2年前に宇和島に帰ってきました。

両親からは農家を継がなくてもよいと言われていましたが、ずっと続いてきた家業を受け継ぎ守りたいと考え、応募を決めました。「農家を継ぎたい」と打ち明けたときに両親がとても喜んでくれたのが心に残っています。

また高齢になる前に地元に戻り安心して暮らしたいという思いもありました。休日は自然の中で愛犬との散歩を満喫しています。

みかん学校の研修生は年代も出身もさまざまで、一緒に学ぶのがとても楽しいです。こうして学校に行く機会はなかなかないので良い刺激になっています。

## 佐々木一行さん

神奈川県出身



3年前から両親が暮らす三間町で米作りを手伝い、冬はミカンの収穫アルバイトをしていました。その中で自分の園地でミカンを作ってみたいと思うようになっていたところ、みかん学校のことを知り応募しました。

新規就農者としては年齢が高いので、経営規模を広げるよりも質の良いものを作ることにこだわりたいです。個人で農業を始めるのは大変ですが、みかん学校を通じて農協や農家、地域とつながりを持つことができるので本当に良かったです。

宇和島にはたくさんさんの文化や伝統が残っていると思います。正月に初めて闘牛を観に行き、その熱気と白熱した試合にファンになりました。また観戦に行きたいです。

かんきつ栽培は市を代表する基幹産業の一つです。近年は価格が安定し、品質の良いものを作れば収入につながる、魅力のある農作物になりました。しかし平成30年7月豪雨災害の影響や農家の高齢化、担い手不足により遊休園地が増えてきているのが現状です。そのような中、前山本組合長の「これからも宇和島をかんきつ産地として存続・発展させ、災害からの復旧・復興を少しでも後押ししていきたい」という強い思いから、みかん学校プロジェクトが動き出し



## 産地を盛り上げる契機に

えひめ南農業協同組合 みかん指導販売部  
部長 兼 就農支援室 室長 伊藤 健二 さん

ました。初めての取り組みで制度設計や研修カリキュラムの構築に苦勞しましたが、足かけ3年、行政やさまざまな機関の協力のおかげで4月に開校を迎えることができました。

開校にあたっては、研修施設や研修園地の整備だけでなく、研修生が卒業したあとに就農できる園地の確保にも注力しました。また先輩農家と交流することと地域とのつながりを持ってもらえるように、地元農家の園地での実習も予定しています。さらに研修中の生活支援のほか、行政への補助金申請支援など卒業後のサポートもしっかりと行きたいと思っています。7月からは来年度の研修生の募集が始まります。興味のある人は市内外問わずぜひ応募してもらえたらと思います。

この事業による就農者の増加は少しずつかもしれませんが、かんきつ生産者をはじめ多くの人に応援してもらい注目が集まっていますので、産地を盛り上げる起爆剤になるように取り組んでいきたいです。



## 地域に根差すことを目指して

えひめ南農業協同組合  
就農支援室 山内 隆次 さん

座学および園地での実習で研修生への指導を担当しています。研修生たちは急傾斜地での農作業の大変さが身に染みていると思います。研修はスタートしたばかりで実際にミカンを収穫できるまで先は長いですが、一緒に頑張っていきたいです。

実習では園地を維持管理していくための除草作業や作業道作りも行います。園地の中心には収穫物を運搬するモノレールが走っていますが、園地は急傾斜地なのでそこまで収穫物を運ぶのにも苦勞します。その作業を少しでも楽にできるように作業



道を作ることが重要となってきます。地道で大変な作業ですが、急傾斜地の多い吉田の山でみかんを作るためには大事なことです。また鳥獣被害から園地を守るために柵の設置方法も学んでいきます。研修後も地域に根差すことができるように、農作業の負担軽減につながる園地の整備・維持管理のノウハウをしっかりと伝えていきたいと思っています。農業は本当に大変ですが、苦勞し育てた分、収穫したときの喜びもひとしおです。これからも多くの人にみかん学校に応募してほしいです。



## 目標を持つことを大切に

愛媛県果樹同志会 会長 赤松 正月 さん

吉田町立間で家業を継いで15年になります。みかん学校は、園地など基盤のない人でも一からミカン作りができる仕組みで素晴らしいですし、応援したいと注目しています。

ミカン作りは、忙しい時期もありますが慣れると時間の使い方自分で決めやすく、子どもの部活動の応援にもよく足を運んでいます。子育てが落ち着いたら自分の趣味の時間を増やそうと楽しみにしています。新しく就農する人には自分の好きなことを楽しむ時間も作ってほしい



と思います。

また「販売量をいくらにする」、「年に1回は旅行に行く」など、どんなことでもいいので目標を持つことが大事です。私も農業を始めた頃、ノートに目標を書いてモチベーションにし、達成するには何をすべきかと考えました。今でもノートを見返すことで原点に戻ることが出来ます。



## 助け合って続いてきた産業

南予果樹同志会 副会長 山下 茂雄 さん

白浜地区で代々ミカンを栽培していて、父の後を継いだのは25年ほど前になります。

就農したばかりだと分からないことが多く、その土地に適した果樹の育て方が分かるようになるには経験を重ねることが必要です。不安なことがあれば、まずは地域の農家さんにアドバイスをもらうことも大切です。

反対に、私たち先輩農家が助けてもらうこともあります。白浜地区では農作業の省力化のためスプリンクラーによる防除を導入しているのですが、高齢者



には維持管理が大変です。そのようなときは、若い新規就農者に力になってもらっています。

農業は一人だけの力では決まてできません。困りごとは抱え込まずに相談し、反対に周りの農家さんが困っていたら手を貸し助け合うことが大切です。



## 令和7年度 みかん学校研修生募集

えひめ南農業協同組合では、かんきつ農家を目指す人を対象にかんきつ栽培の基礎知識や栽培技術を習得できるみかん学校（講義・実習）を開校しています。

### ■募集人数

▷年間5人程度

### ■募集期間

▷7～12月（随時、相談受付）

### ■研修要件

- ▷農業経営を開始する強い意志がある人
- ▷原則、就農予定時の年齢が49歳以下の人
- ▷研修終了後1年以内に市内で就農できる人
- ▷年間1,200時間以上受講できる人

### ■研修場所

- ▷講座：JAえひめ南 みかん学校（吉田町喜佐方）
- ▷実習：JAえひめ南 かんきつ研修園地（吉田町南君ほか）

### ■研修期間

▷原則4月～翌年3月（1～2年）

### ■研修費用

▷無料

※詳しくはホームページをご覧ください。

問 えひめ南農業協同組合 就農支援室  
☎22-8118



## 宇和島市農業就業者支援事業

市では、移住して農業に挑戦したい人を支援しています（Uターン者も条件を満たせば対象になります）。

### ■就農支援金

▷支給額 36万円  
移住・就業後に支給。県内移住者は18万円

### ■定住支援金

▷支給額 最大70万円  
移住・就業後1年経過ごとに分割支給（最長3年間）。県内移住者は35万円



### ■住宅支援金

▷支給額 最大120万円  
2万円／月×60カ月（最長5年間）

### ■雇用就農資金(国事業)

▷支給額 最大240万円  
60万円／年（最長4年間）  
農業法人等と雇用契約を締結する必要があります。

※詳しくは市ホームページをご覧ください。

問 農林課農業振興係 ☎49-7022



# 地域に根を張り 思いをつないでいく

普段、家庭や店先で当たり前のように目にするミカン。その一つ一つが長い歴史の中で受け継いできた技術の結晶で、そこには代々この地でかんきつを作り、産地を守っていききたいという農家の思いが込められています。

その思いをつなごうと後継者としてふるさとで農業を始める人や、新しい地で農業に挑戦する人たちがいます。強い思いや新しい感性を持って地域に根を張る新たな芽を、みんなで応援し育てることが重要です。

これからも地域や農業に愛着を持って移住、就農する人が増えるように、産地の未来をみんなで作っていきましょ。

